



欧州における青少年のスマートフォン利用

一般財団法人マルチメディア振興センター（FMMC）

情報通信研究部 研究員 平井 智尚

概要

日本における青少年のスマートフォン所有率は年々増加している。内閣府が公表した調査では、2013年度の小中高生のスマートフォン所有率は前年比約20%増の56.8%であった。高校生に限るとスマートフォンの所有率は約83%に達している¹。こうした傾向は日本に限られた現象ではなく世界的にも共通していると思われる。本稿では欧州で実施された青少年のモバイル利用に焦点を当てた調査を参考にしながら、欧州における青少年のスマートフォン利用の一端を明らかにする。

1. スマートフォンの利用状況

複数の調査を概観すると、現在、欧州におけるスマートフォンの所有率は40～50%程度であり、特に北欧や西欧の主要国ではスマートフォンの普及が進んでいる²。並行する形で青少年の間でスマートフォンの所有や端末の利用機会も増えている。

EUの「安全なインターネット・プログラム（Safer Internet Programme）」の資金で設立されたプロジェクト「Net Children Go Mobile」は、青少年のモバイル利用が広がる中、最新の利用実態、スキルやリテラシー、リスク問題などの現状把握が必要であるという問題意識に基づき、欧州数か国を対象としたモバイル利用調査を2013年に実施した³。その調査結果を見ると、青少年の間でスマートフォンの所有や利用が増えている様子をうかがい知ることができる⁴。

まず、スマートフォンの所有率は全体で53%を超えており、各種ICT端末のうち、所有率は最も高くなっている＝表1。年齢・世代別では年少者よりも年長者の方が所有率は高い。年長者のスマートフォン所有率の高さは日本の内閣府が公表した調査結果と共通した傾向である。

¹ 内閣府(2014)「平成25年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

² Ericsson(2014)「Europe Mobility Report Appendix June 2014」等

³ 調査対象者は9～16歳の青少年2,500人で、当初の調査対象国は英国、デンマーク、イタリア、ルーマニアである。後にベルギー、ドイツ、アイルランド、ポルトガル、スペインが調査対象国として新たに追加された。

Net Children Go Mobile <http://www.netchildrengomobile.eu/>

⁴ Mascheroni, G. & Ólafsson, K.(2013) Mobile internet access and use among European children. Initial findings of the Net Children Go Mobile project.

表 1 青少年の各種 ICT 端末の所有率

	9～12 歳		13～16 歳		全体
	男	女	男	女	
デスクトップ	29%	33%	41%	32%	34%
ラップトップ	36%	39%	52%	61%	48%
携帯電話	26%	30%	34%	33%	31%
スマートフォン	40%	37%	68%	64%	53%
タブレット	10%	18%	23%	19%	18%
電子書籍リーダー	8%	7%	8%	12%	9%
その他の携帯端末	10%	7%	9%	14%	10%
家庭用ゲーム機	44%	25%	50%	19%	34%

Mascheroni, G. & Ólafsson, K. (2013) p.14 をもとに作成

次に、インターネットに接続する際に日常的に利用する端末については、ラップトップとスマートフォンの割合が拮抗している=表 2。ただし、スマートフォン以外の携帯電話経由でインターネットに接続している者が 15%存在しており、この層がスマートフォンを所有した際にはスマートフォン経由のインターネット接続が増加し、最も多くの割合を占めると推測される。

表 2 インターネットに接続する際に日常的に利用する端末（世代別・年齢別）

	9～12 歳		13～16 歳		全体
	男	女	男	女	
デスクトップ	41%	32%	51%	36%	40%
ラップトップ	41%	34%	52%	65%	49%
携帯電話	10%	14%	13%	21%	15%
スマートフォン	31%	31%	62%	62%	48%
タブレット	25%	20%	3%	36%	29%
電子書籍リーダー	6%	5%	17%	18%	12%
その他の携帯端末	9%	10%	27%	30%	20%
家庭用ゲーム機	23%	11%	34%	22%	23%

Mascheroni, G. & Ólafsson, K. (2013) p.12 をもとに作成

2. スマートフォンの利用目的

日本の青少年のインターネット利用状況の調査を見ると、携帯電話・スマートフォンを通じたインターネット利用の内訳はメールが最も多く、以下、「調べもの」、「音楽や動画等の閲覧」、

「SNS サイト等のコミュニケーション」、「チャット等のコミュニケーション」が続いている⁵。

欧州に目を向けてみると、スマートフォン利用者の日常的なオンライン（インターネット）活動で最も多くの割合を占めるのは「ソーシャル・ネットワーキング・サービスの利用（Visited a social networking profile）」で、以下「音楽聴取」、「インスタント・メッセージ利用」、「映像クリップの視聴」が続いている（表 3）。すなわち、欧州も日本と同様に「コミュニケーション」や「コンテンツの利用」がスマートフォン利用の中心を占めている。また、同調査ではスマートフォン所有者と非所有者のオンライン活動に関する比較も行われており、所有者は非所有者よりも積極的にオンライン活動を行っていることが示されている。

表 3 スマートフォン所有者と非所有者のオンライン活動（上位 8 項目）

	9～12 歳		13～16 歳		全体
	非所有	所有	非所有	所有	
ソーシャル・ネットワーキング・サービスの利用	22%	56%	64%	90%	58%
音楽聴取	31%	60%	54%	82%	57%
映像クリップの視聴	34%	56%	58%	77%	56%
インスタント・メッセージ利用	19%	46%	41%	82%	48%
学習	16%	34%	34%	54%	35%
関心のある情報の探索	14%	30%	35%	56%	34%
ゲーム（一人もしくはコンピュータ相手）	29%	42%	29%	36%	33%
ゲーム（インターネット）	21%	44%	28%	41%	32%

Mascheroni, G. & Ólafsson, K. (2013) p.20 をもとに作成

3. 青少年のスマートフォン利用をめぐる問題の共有に向けて

本稿では「Net Children Go Mobile」の調査結果をもとに欧州の青少年のスマートフォン利用の一端を明らかにした。各種 ICT 端末の中でスマートフォンの所有率が最も高く、青少年はスマートフォンによるインターネット接続を通じて日常的にコミュニケーションを営んだり、コンテンツを利用したりしている。こうした特徴は日本とも通じている。本稿で取り上げたのは欧州と日本だけであるが、インターネットを通じたコミュニケーションやコンテンツ利用の主たる手段として青少年がスマートフォンを利用するという傾向は、世界的にも、特に先進国では共通する特徴と言えるだろう。

こうした知見に特段目を引くところはない。だが、青少年のスマートフォン利用をめぐる問題の共通基盤となり得る。その一つとして、スマートフォン利用とリスクの問題が挙げられる。

前述のように「Net Children Go Mobile」ではリスク問題の現状把握が調査目的の一つに挙げられ、実際に青少年がスマートフォンを通じたオンライン活動で遭遇するリスクに関する調

⁵ 内閣府(2014)「平成 25 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」

査が実施されている⁶。その中で具体的なリスクとして挙げられている「ネットいじめ」、「オンラインを通じて知り合った人との出会い」、「有害コンテンツとの接触」などは、日本でもたびたび問題視されてきた。特に日本は比較的早い時期から青少年の携帯電話（フィーチャーフォン）を通じたインターネット利用が進んでおり、様々な調査研究や対策の蓄積がある。今後、世界的に問題の共通化が進んだ際には、日本が蓄積してきた知見や取り組みが役立つ面があるかもしれない。

また、スキルやリテラシーの問題でも共有の余地がある。「Net Children Go Mobile」では、青少年のスマートフォン利用に関係するスキルやリテラシーとして、アプリケーションやコンテンツの利用、およびリスク回避などに焦点を当て、調査を実施している⁷。日本でも青少年のインターネット・リテラシーに関する実態調査で、違法有害情報、不適正利用、プライバシー・セキュリティのリスク対応について、スマートフォン利用と関連付けた調査が行われている⁸。高機能な情報通信端末であるスマートフォンの利用に際しては、従来の携帯電話以上のスキルやリテラシーが求められる。だが各国・各地域ともにスマートフォンが本格的に普及してから日は浅く、青少年が持つスキルやリテラシーに関する知見が蓄積されているわけではない。各国・地域で調査結果などを共有し、現状把握を行っていく作業は重要な意味を持つだろう。

この他にも学習における情報通信端末利用のあり方など、青少年のスマートフォン利用については様々な論点が存在している。情報通信端末の高度化や通信ネットワークの高速化は世界的に共通する趨勢であり、青少年が置かれる情報メディア環境もまた類似性を帯びる。世界各国・地域における青少年の情報メディア利用に関する動向の調査は今後も継続して行っていく必要がある。

—
⁶ Mascheroni, G. & Ólafsson, K. (2014) Net Children Go Mobile: risks and opportunities. Second edition.

⁷ *ibid.*

⁸ 総務省「平成 25 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等」、「平成 26 年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等」